

(三) 災害

1 災害年表

この出典は、『徳島県災異誌』県史編さん委員会昭和三十七年刊、『馬路川洪患志』田村左源太編昭和十三年刊、『徳島毎日新聞』による。

年	災害	被害
大正一二年 (一九二三)	水	『徳島毎日新聞』(七・一三)吉野川増水(前略)池田署管内連日降雨のため吉野川増水し白地渡船場において一日午後一二時一丈九尺 水害の箇所は山城谷村字猫坊付近国道筋崩壊一か所同村大谷橋国道筋流失。佐馬地村大字白地堂床橋流失、天神橋上手国道筋崩壊一か所、池田町北條病院前郡道崩壊一か所(同町の溝渠は濁水氾濫し泥海の如く床上浸水多数(下略))。

『徳島毎日新聞』(七・一四)大池氾濫して西町本町水込み
三好郡池田町にては数日前より雨天打ち続き居たるに一日夜来俄然豪雨降りしきり町内の水路溢水し殊に土流にある池南の大池より一時流れ来る等旁以て西町方面及び本町一帯ごとく家屋に浸入し又電気も消燈し暗夜大々混雑せり(下略)。
『徳島毎日新聞』(七・一九)仙野から猫坊間三か所大崩壊
本日一二日豪雨ありし際三好郡山城谷村仙野大谷橋流失し同所より猫坊までの間において三か所の大崩壊あり復旧するに

第三期 大正一〇年郡制廃止から昭和二〇年八月一五日敗戦まで

第四章 近代

昭和三年 (一九二八)	水	<p>三好郡方面の出水被害でその後判明せるもの次の如し</p> <p>。佐馬地村白地 浸水家屋三〇戸 非住家一戸流失</p>
(一九二四)	雷雨	<p>は三か月の日子を要すと目下自動車等は池田町よりは白地渡船によらず三繩村漆川橋下手より川向いなる山城谷猫坊に出でうまく連絡を取り通行をなしつつあり。</p> <p>『徳島毎日新聞』(八・一九) 四宮神社へ落雷</p> <p>一七日午後四時四〇分頃三好郡三繩村に大雷雨あり同村四宮神社に落雷した。</p> <p>『徳島毎日新聞』(八・六) 早ばつと不景気一緒になって寂れた池田町</p> <p>三好郡池田町にては過日米五日間に亘り雨乞をなしたるも寸効もなくなつて晴天となり畑作物は枯死全滅の状態にして、飲料水の如きも増減水し郡内各所に水滴湧出せん勢いをなせり、旧盆前にも拘らず商業取引杯も至極閑散にして料亭旅館の如き池田町一流の松又、政海、三島館を除く外概して寂寞の感あり之に反し、医師と水店は不景気知らずである。</p> <p>『徳島毎日新聞』(八・三一)</p>

町村別	辻三庄三野	箸蔵地	佐馬三繩	計
人畜	一人死亡	一人		二
全道				二
半道				一
非住家流失	二	不明		三
住家流失	同			

。池田川の江間 県道浸水のため交通絶

。三繩村大利字大田浦に山崩あり交通絶

。箸蔵村非住家一戸流失

なお、架橋演習のため舎宮中の善通寺工兵隊出動して救護警戒に努めつつあり。

『徳島毎日新聞』(八・三一) 池田町の民家四〇戸浸水

吉野川三好郡白地に於て三〇日午前一時に四〇尺の増水あり池田町にては約三〇尺にて刻々増水しつつあり同町通町にては浸水家屋四〇戸を出し警鐘を乱打し青年団消防組、在郷軍人等総出動して大警戒をなしつつあり。

『徳島毎日新聞』(九・二) 三好郡内其後判明の水害

八年 (一九三三)	風	<p>三好郡佐馬地村大字今津に於ては、二〇日の大暴風雨のため住家全潰一 非住家全潰二 電柱の倒潰三 その他看板の吹飛ばされた被害多数あった。</p> <p>『徳島毎日新聞』(九・一〇) 吉野川増水交通絶</p>
九年 (一九三四)	水	<p>昨夜来の降雨により吉野川沿岸の増水は</p>

風・水	<p>山城谷二〇尺、池田一三尺に達し各所渡船はいずれも不通となり(下略)。</p> <p>『徳島毎日新聞』(九・二四) 池田工区内の土木災害</p> <p>二三日佐馬地村内馬場橋流失損害約四〇〇〇円(下略)。</p> <p>『徳島毎日新聞』(九・二四) 県下の暴風水害池田方面とその下流三好郡では、池田町が最も被害が大きく家屋倒壊五戸、半壊四戸、死者二名、重軽傷者四名を出した。</p> <p>『徳島毎日新聞』(九・二四) 吉野川筋を視察して道路、橋梁等の損害</p> <p>岡本技師、繁井属が吉野川上流を視察して語る。</p> <p>池田地方の被害もかなり甚大である。三好橋の水位が最高五〇尺で国道筋は各所に小崩壊があつて山城谷猫坊の崩壊で交通絶し、池田川ノ江線は佐馬地村の峯友に崩壊があつて同様絶、久保池田線も各所に道路・石垣の決壊山腹の崩壊があつて、てんでん交通を遮断せられ就中三繩村の大田の山腹崩壊でこれ又交通絶した石の内辻線にも崩壊各所にある(中略)。箸蔵橋の墜落、その他谷筋に決</p>
-----	---

第三期 大正一〇年郡制廃止から昭和二〇年八月一五日敗戦まで

第四章 近代

一九三七年	豪雨	漬の被害甚大である(下略)。 『徳島毎日新聞』(二〇・九) 葉煙草 害 補償額八〇〇〇円 本県煙草病害の罹災補償金見込は、徳 島地方専売局に於て各耕作地につき調査 中であつたが(中略)、その最も被害の甚 だしかつたのは池田で二九七五円の罹災 補償金の見込である(下略)。 『徳島毎日新聞』(九・二四) 池田三繩 間丸山トンネル豪雨で崩壊 二二日午後二時頃土讃線池田三繩間丸山 トンネル南口南方約一〇メートルの箇所 の切取口が過日來の豪雨のため約一五坪 崩壊幸い列車の通過時で無かつたので被 害は無かつたが、池田保線区では保線手 を現場に急派して復旧作業に務めた結果 同四時五分に復旧したが池田駅発三時三 七分三繩行は二五分遅発した。 『徳島毎日新聞』(九・二三) 佐馬地根 引道路崩壊 二三日午後四時頃三好郡佐馬地村大字佐 野字根引の道路(一三メートルに幅三メ ートル)が崩壊し交通杜絶となつた。 『徳島毎日新聞』(九・二三) 去る一一 日朝來の暴風雨は、三好郡内にも相当大
一九三七年	水	
一九三七年	台風	

一九三八年	地震	なる損害を与えた調査したる所による と、 。池田町では商店の看板は大风吹飛ばさ れトタン葺住家はもとより屋根瓦等吹 飛ばされたもの多く一時は省営バス鉄 道祖谷山行自動車等杜絶したので混雑 を呈した。 。佐馬地村では電柱の倒れたもの六本、 浸水家屋数軒、道路崩壊数所(中略)。 。祖谷街道三繩村から祖谷山間の道路崩 壊数か所に亘り交通全く杜絶し其外箸 藏(中略)の各町村でも浸水家屋多数 住家半壊数軒、桑、稲田、多数浸水数 町に及び多大な損害を蒙つた(中略)。 吉野川筋の増水状況は正午調べ山城谷 付近で四〇尺三好橋で三五尺池田付近 二二尺、大具渡船場で二〇尺、江口渡 船場で二〇尺であつた(下略)。 (四・一)三野地震 二二時四〇分三野付近を中心として四 国の外中国の大部分和歌山に有感の地 震で震度はⅣ(芝生・川井・下分上山 池田・和食)Ⅱ徳島・高知・岡山 『馬路川洪患志』 九月五日、徳島県の東部に襲來した台風
一九三八年	台風	

一九三七年	台風	(中略) 当地方は夜明け前に雨となり、 一〇時頃より西寄りの強風の伴う豪雨と なり午後二時までの間に蒙つた佐馬地村 の惨禍は村当局の調査によれば 一、生産物損害 四七、五九九円 (穀類蔬菜果樹桑葉等) 二、建物損害 三一、六八〇円 (全潰又は流失家屋三六棟 半潰 家屋三〇棟 大破又は床上浸水家 屋一九〇棟) 三、土地損害 一四二、五〇〇円 (被害田二〇町五段 畑一町八 段 山林一〇〇町 宅地二五〇 坪)
-------	----	--

一九三八年	地震	四、道路橋梁用水路井堰損害 八八、〇〇〇円 (村負担分) 里道二六〇〇M 橋梁五〇個所 井堰二五個所 用水路一五〇〇メ 五、護岸損害 二〇〇、〇〇〇円 (村負担分) 一〇〇ヶ所一万平方米 六、其 他 一六、〇〇〇円 (機械器具被服食料等) 計 五二五、七七九円
-------	----	--

2 池田町の大火

昭和九年七月八日正午、池田町大通り三丁目の金物商から出火、同家はまたたく間に全焼し、折柄の西南風にあおられ、たちまち火の手は八方に拡がり、大通り及び宗安通り(中略)の繁華街は、火の海と化した。連日の干天に加えて、上水道も時間給水の断水状態であつたため、消火作業は、三好・美馬郡一二か町村の応援があつたものの、一滴の水も出ぬ状態であつた。

折よく箸藏村州津に架橋演習中の善通寺工兵第一大隊から約六十名がかけつけ、警察、消防組に協力した。しかし、破壊消防以外に手段がなく必死の働きによって、午後三時半専売局池田出張所東方でようやく鎮火した。

第三期 大正一〇年郡制廃止から昭和二〇年八月一五日敗戦まで

(四) 災害・事件

昭和二〇年から三〇年までの主な災害及び事件は次のとおりである。

1 災害年表

出典は、『徳島縣災異誌』県史編さん委員会昭和三十七年刊、『徳島縣災異誌(続編)』徳島県昭和五十六年刊、他に『徳島新聞』によった。

年	災害	被害
昭和二〇年 (一九四五)	台風	昭和二〇年九月一七日・枕崎台風。風雨状況 本県では一六日のおそくから雨が始まり大体一七日で終わった。雨量はそれほどでなかったが風は強く、かつ長時間にわたったので被害が増加したものと見られる。最低気圧七三三・三ミリ。この暴風雨で戦災後の徳島の仮小屋はほとんど倒壊した。なお吉野川は上流高知県雨量が大きかったので記録的な最大洪水となり池田九・三メートル(警戒水位六・〇メートル) 岩津七・六メートル(五・五メートル) 新町五・一メートル(三・五メートル)の水位を記録した。

年	災害	被害
昭和二六年 (一九五一)	台風	昭和二六年一〇月一四日〜一五日・台風ルース(一五号)。風雨状況 強風 この台風では三好郡の山狭地帯、特に山城谷・祖谷などで近年まれな突風があつて住家の倒壊、人の死傷などを出した。 被害 三好郡(山城谷死二、傷一〇、三縄死一、西祖谷山傷三。全壊 山城谷二七、三縄二七、東祖谷山七、西祖谷山二〇、三名六、佐馬地九、三庄五、箸蔵四、三野一) 〔徳島縣災異誌〕
昭和二六年 (一九五一)	台風	昭和二六年一〇月一七日・谷間を荒らした台風、災害の中心山城谷三縄両村を歩く。

第一期 昭和二〇年八月一五日から三十四年三月三二日まで

三繩村 池田から九キロ余、ぐっと狭まった吉野川を右に見て三繩村役場に行く。村長は県に被害報告のため留守、梅本、中尾両助役から実情を聞く。ここでは一般民家のほか役場隣りの公会堂の倒壊、仙石橋、山貝橋（いずれもつり橋）が吹飛ばされたのをはじめ各小学校の屋根瓦や、窓ガラスも大きな被害をうけた。このため出合小学校は、一五日から臨時休校だ。役場の窓下を流れる吉野川の水量は、ほとんど平水位になったが、河水の白い濁りが豪雨のはげしさを物語る。この村で最大の被災地西傍示部落は、土讃線祖谷口駅の対岸、頂上近くまで開いた段々畑の間に十数軒の草ぶきの農家が点在し、そのほとんどの居宅や納屋がやられている。

昭和三十三年 (一九五八)	寒 波	昭和三十三年一月二三日、池田町付近では午前一時ごろから粉雪が降りつづき、一時現在池田町の町筋で約八センチ積り、車の通行に困難をきわめた。
昭和二十九年 (一九五四)	(内雨)	昭和二十九年六月二十九日～三十日 四国南方に梅雨前線が停滞し剣山山系に大量の雨を降らせた。特に二十九日の夜から三十日の朝にかけての五時間位の間は、雷を伴い多雨地では二〇ミリを超えた。(川口二九二ミリ、祖谷二四一ミリ、大歩危二三八ミリ、池田二〇〇ミリ) 被害 死三、傷四、全壊一五、半四三、流六、床上二六五、床下二二三三、道五七、木材流六五石 〔徳島縣災異誌〕

2 池田町第二の大火

昭和二十三年一月二八日午前零時ごろ、矢塚通りの家具類製造所から出火、同家を全焼し、隣家へ類焼し、おりの西北風にあおられて、道路をはさんで、駅前通りの劇場池田館(二二〇坪)に飛火した。矢塚通り両側一二棟、総坪数三四五坪一二世帯の家屋を全焼した。二時三〇分ごろ、鎮火した。このとき隣接の三繩・山城谷・佐馬

地・箸蔵・辻五か町村の消防団員約百六十名も応援し、池田消防団に協力して、この大火を食い止めたが、一時は猛烈な火の粉が夜空を焦し、全町は危険に瀕した。損害は約一千二、三百万円といわれた。

母子対策 単位 人

項目 年度	家庭訪問	健康相談
	実 数	延 数
昭和48年	816	644
49年	408	786
50年	865	915
51年	929	385
52年	841	642
53年	514	303
54年	155	683
55年	110	470
56年	97	588

(四) 災害年表

昭和三四年から昭和五五年までの主な災害は次のようなものであった。

出典は『徳島縣災異誌』県史編さん委員会昭和三七年刊、『徳島県災異誌(統編)』徳島県昭和五六年刊、ほかに『徳島新聞』『池田町報』『広報いけだ』による。

昭和 三四・一・一八 (二九五九)	年・月・日	災害	被災状況
		大雪	『徳島新聞』(一・一八)一七 日朝積雪があり、池田二五セン チメートル、佐馬地五〇センチ メートルであった。バス関係 は、西部交通の木屋平線、美馬 交通の八千代・一字の両線、徳 島バスの名西線入田以西、土柱 線的一条―土柱、池田支線の石

三六・一・三 (二九六一)	年・月・日	大雪	井―森山、引田線の大須以北の 線が一日運休した。国鉄も午前 五時三九分阿波池田発上り小松 島行三―四列車が一七分、続く 穴吹駅午前六時四六分発徳島行 三四〇列車が二〇分延着した
		大雪	『徳島新聞』(一・三)池田で 一五センチメートルの積雪があ り、零下四―一度の気温(県農

第二期 昭和三四年四月一日から五五年三月三十一日まで

三	豪雪	<p>試池田分場調べ)で凍りついでとけず、バスもほとんどストップしてしまった</p> <p>一月中旬から月末にかけて裏日本一帯の大雪は昭和三八年一月豪雪と命名され、四国山間部まで及んだ。冬型気圧配置の持続で山間部は大雪となり交通は麻痺した</p> <p>各地の積雪 二三日 一字四七センチメートル、鬼籠野四一センチメートル</p> <p>二四日 徳島八センチメートル</p> <p>二七日 一字八八、池田七〇センチメートル</p> <p>三一日 一字八八、川井七六センチメートル</p> <p>この豪雪で山城町では三月九日、雪のために麦が腐ったことと新しくつくった石がきが降雪によってくずれたことを悲観した老人が首つり自殺をした</p> <p>『徳島新聞』(三・一八)一月以来の大雪で祖谷地区をはじ</p>
---	----	---

四二・一	大雪	<p>め、山城・池田・三加茂・井川など北向き傾斜畑では二か月近くも雪が降り大きな痛手を受けている。裸麦などは平年の半作(一〇アールあたり九〇キロ平均)といわれ、全然収穫できないところもあるという。三好西部農改善及所では思い切って春まきバレイショやインゲン豆などに転作するよう指導している</p> <p>『徳島新聞』(一・一六)池田町一五日の積雪、一四センチメートル</p> <p>池田町中心街で九センチメートルの積雪</p>
四三・二・一五 (一九六八)	大雪 (台湾 低気圧)	<p>台湾付近に発生した低気圧が発達しながら四国沖を通過し(九八〇ミリバール)、九州から関東にまたがる南岸沿いの各地に記録的な大雪を降らせた。徳島の最深積雪は一九センチメートルあったが、水分を多量に含み、総降水量は七五ミリメートルとなり、気温は低く、一五</p>

四四・一・二 三 (一九六九)	大雪 (西部 山間部)	<p>日から二日までの八日間降り積った雪は溶けなかった(積雪の継続日数八日は開設以来第一位の記録)。この雪は昭和二六年二月一四日の大雪から一七年ぶりの南国としては珍しい大雪となった</p> <p>一六日九時の積雪、池田五五、鬼籠野五一センチメートル、電燈線・通信線は着雪のため切断、通信は完全に途絶し、陸・海・空の交通は全面的にストップした</p> <p>また、樹木・果樹の枝折れや倒木・促成ビニールハウスの倒壊などで、山林・農作物の被害は甚大であった</p> <p>冬型の気圧配置が強まり、寒波の襲来で西部では大雪となり、西祖谷・一字・木屋平村などでは、交通機関は途絶し、雪中に孤立状態となった</p> <p>三月九日の積雪 一字七〇、京上三三、池田一一、穴吹一二センチメートル</p>
-----------------------	-------------------	--

四六・二・上旬 (一九七二)	寒波	<p>台湾付近に発生した低気圧が急速に発達しながら一二日前には四国沖をとおったため大雪となった。このため陸・海・空のダイヤは運休などで交通網が乱れるとともに、ビニールハウスの全、半壊により農作物にも被害がでた</p> <p>一月末から二月上旬にかけて冬型気圧配置が続き、寒波が来襲、西部山間部では連日雪となり、交通機関は麻痺状態となった。池田町では一日から三日までに約二十センチメートルの積</p>
四五・一・五 (一九七〇)	寒波	<p>大陸高気圧は四日、一〇七〇ミリバールに発達し、顕著な冬型気圧配置となり、寒気が押し寄せ降雪が激しくなった</p> <p>一五日九時の積雪 芝生一八、一字一七、穴吹一五、池田一四、徳島一センチメートル</p>
三・二・二 一三	大雪 (台湾 低気圧)	<p>台湾付近に発生した低気圧が急速に発達しながら一二日前には四国沖をとおったため大雪となった。このため陸・海・空のダイヤは運休などで交通網が乱れるとともに、ビニールハウスの全、半壊により農作物にも被害がでた</p> <p>一月末から二月上旬にかけて冬型気圧配置が続き、寒波が来襲、西部山間部では連日雪となり、交通機関は麻痺状態となった。池田町では一日から三日までに約二十センチメートルの積</p>

四七・二・一〇 (一九七二)	大雪 (低気圧)	雪があった 低気圧が発達しながら四国沖を通過したため、九日夜から降り始めた雪は、一〇日朝まで断続的に降り続き、池田三九、一字三五、岩倉三三、穴吹一〇、徳島一センチメートルの積雪となった。このため山間部ではバスがストップするとともに国鉄のダイヤが乱れ、臨時休校や停電事故が相次いだ。また、農作物や果樹のハウスの倒壊や枝折れによる被害が出た
七・四 六	大雨 (前線・湿舌)	三日朝、黄河下流に発生した低気圧は黄海で九九二ミリバールに発達し、ゆっくり東に進み、五日朝には日本海に入った。この低気圧に向かって東シナ海から湿った暖気が流入し、西日本では雷を伴った局地的大雨が群発し、高知県繁藤の大山崩れ、宮城県蝦野の山崩れ、天草竜ヶ浜の山崩れなどで生き埋め事故が続発した。県内でも阿南市を中心に家屋に浸水、山崩

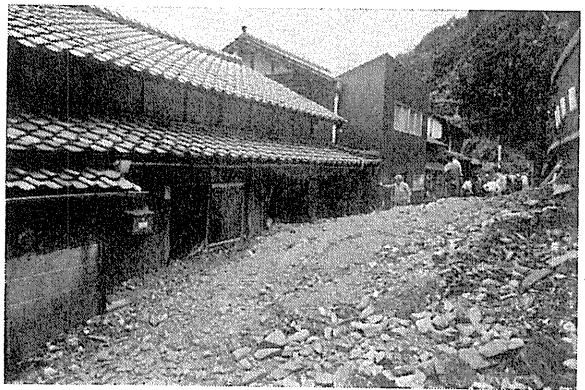
四九・九・八 九 (一九七四)	台風 一八号	九月八日午後から九日未明にかけて、池田町を襲った豪雨は降水量三七九ミリ(ハヤシ浄水場調べ)であった。徳島地方気象台の話では大正元年九月二日の記録は降雨量二八三ミリで、今回はそれを超す大雨。板野にある吉野川の建設省水位観測所での最高水位は八日午後八時に一四・五メートルを記録、同所の警戒水位九メートルを高く超えた
五〇・二・二一 二二 (一九七五)	寒波・大雪	町の被害は、居宅の全壊四、半壊二、床上浸水が高友など一〇七戸、道路は白地の国道で長さ八メートルが陥没、県・町道は全域にわたり二二八か所破損、水道被害は大和・川崎・箸蔵の地区で取水管流失など、箸

蔵は水源池のポンプが水没、水道はウエマツ地区の山崩れのため配水池に土砂が流れ込むなどがあった。田畑も全域にわたり作物の流出、埋没が二ヘクタールに及んだ

冬型の気圧配置が強まり、強い寒波の来襲で県西部では二〇日夜から雪となり、二三日にかけて大雪となった。バスは運休、小・中学校は臨時休校のところが多かった。配電線の切断(八八か



陥没した道路(白地・昭和49・9)



土砂崩れで埋まった家(大和・昭和49・9)

第二期 昭和三四年四月一日から五五年三月三十一日まで

<p>四・二</p>	<p>五二・一・一〇 〃二二 (一九七六)</p>
<p>所)、電柱折損一本のため延べ三・四〇〇戸が停電した(四国電力調べ) 二九日九時の積雪 穴吹八、池田一、徳島一、鴨島六センチメートル 二二日九時の積雪 穴吹二、岩倉一七、池田一〇、徳島一、鴨島七、京上二二センチメートル 二三日九時の積雪 京上三三、穴吹一〇センチメートル 冬型の気圧配置となり、県西部の池田町では雪となった。積雪〇センチメートル</p>	<p>大雪 (寒波)</p> <p>今冬一の寒気団の南下で日本海側を中心に厳しい寒波に見舞われたが、県下各地でも雪となり、山間部のバスは麻痺状態となり、小・中学校では臨時休校するところが多かった 一〇日の積雪 穴吹七、池田九センチメートル 一日の積雪 穴吹七、池田九、徳島二センチメートル</p>

<p>五五・七・下旬 〃八月 (一九八〇)</p>	<p>異常低温と寡熱(不作)</p>
<p>一・二日の積雪 京上一五センチメートル</p>	<p>七月下旬より低温傾向となり、日照不足も八月にかけてしだいに顕著となった。特に八月上旬の平均気温は二四・八度Cと四〇年ぶりの異常な低温を記録。日最高気温の平均は二八・五度Cと平年にくらべ二・八度C低く、また日照時間も一〇二〇時間で平年比四二パーセントと異常に少なく、ともに開設以来第一位の記録となった。 この異常低温と寡熱の影響を受け、水稻成育の遅れ、軟弱徒長が目立ち、葉イモチの発生面積約一万ヘクタールに達した。このため水稻の作柄は「不良」となり、農作物の中で最も大きな被害を受けた。その他、野菜・果樹・特用作物などの被害もかなり大きく、農作物全体として総額六九億一千万円の被害となった</p>